

前衆議院議員

木原誠二

活動報告書

せいじ便り 44号

一歩一歩ともに



今こそ小泉改革の総括を

「鉄の女の涙」を見て

ゴールデンウィーク中、映画「マーガレット・サッチャー、鉄の女の涙」を見ました。

普通のサラリーマン家庭で育った私が政治家を目指したきっかけは、サッチャー元首相との出会いでした。99年～01年まで英国大蔵省に勤務した際、サッチャー元首相と知り合い、数回食事を共にさせていただき、直接ご指導いただきました(詳しくは、拙著「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)をご参照ください)。

我が政治の師を題材にした映画を見て感じたことは、「サッチャー元首相以降の英国と小泉元首相以降の日本は、どうしてこうも違ってしまったのか」ということでした。共に、自助自立、官から民へ、小さな政府e t cに取り組んだ二人。

英国ではサッチャー改革の燈火が今でも光り続け、日本では小泉改革の原点は完全に途絶えてしまいました。



混乱の最大の要因は小泉退陣

最大の要因は、小泉元首相が05年の選挙で大勝したにも関わらず、**1年もたたずに退陣**したことです。サッチャー元首相は13年間、首相の座にあつて、ようやくサッチャー主義を英国に根付かせました。小泉元首相も、300を超え議席を国民から授けていただいたのですから、途中下車せず最後まで改革に取り組むべきでした。

政権交代の失敗

もう一つの要因は、政権交代の失敗です。政権交代とは、前政権のよいところを引き継ぎ、悪いところを修正するものです。良い点が続き、悪い点は改められるのですから、政権交代を繰り返すことで政治も経済社会も**一歩二歩階段を上る**ように良くなっていく。

実際、英国では、97年、サッチャー、メージャーと20年近く続いた保守党政権から労働党ブレア政権への交代が起りましたが、ブレア首相は、サッチャー改革の肝であった自助自立の精神を

引き継ぎながら、足らざるところを修正する「**第三の道**」を採用しました。

ところが、日本では、09年の政権交代で、政治は悪化してしまいました。民主党政権が、小泉改革のよい点を一切認めず、**全否定からスタート**したからです。

その結果、農家戸別所得補償、子ども手当、高速道路無料化などのバラマキ政策に見られるとおり、自助自立の精神は崩壊。

そして、**生活保護の急増**。リーマンショックや高齢化の影響はありますが、今や受給者は200万人を超え、3.5兆円に及びます。大きな要因が、生活保護申請があった場合「**速やかな保護決定**」を行うようにという、民主党政権が地方自治体向けに発した通達でした。

求められる小泉改革の総括

今こそ、小泉改革のよいところを認めた上で負の部分をは正する、「**小泉改革の総括**」が必要です。残念ながら、自民党も、真面目に総括をするこゝとなく、かつての旧態依然とした体質へ**先祖返り**を始めつつありますので、

私自身、党内でしっかりと声を上げていきます。そこで、総括として三つ。

〈経済政策〉

第一に経済政策。規制改革、無駄な公共事業の削減、小さな政府などの官から民への改革の精神は、今後とも遵守していくべきです。しかし、大企業も中小零細企業も同じ基準・条件で競争に曝そうとした点に大きな問題がありました。例えば、規制改革については、本当に必要だったのは、ガソリンスタンドやタクシーといった中小・零細企業が主流の分野ではなく、電力（地域独占、送電分離）、空港、港湾といった、より根本的で大規模な分野あり、こうした改革にしっかりと取り組んでいかなければなりません。

〈社会保障政策〉

第二に社会保障政策。社会保障の効率化なくして財政健全化はありえず、従来聖域とされてきた社会保障に切り込んだことは評価されるべきです。しかし、財政的視点から捉えすぎたあまり、病院ベット数、入院日数の削減といった画一的な手法に頼りすぎてしまいました。むしろ、前回のせいじ便

りで提起した、かかりつけ医制度の導入、ジェネリック医薬品の利用促進、終末期医療の在り方は是正など、より構造に踏み込んだ改革を進めていかなければなりません。

〈政策決定過程〉

第三に政策決定過程。小泉改革の功績の一つに、官僚に独占されていた政策決定過程に、民間の経済学者を取り込み、経済財政諮問会議という新たな最高意思決定システムを作り上げ、政治主導を実現したことにあります。この政治主導だけは民主党政権で引き継がれるかのように見えました。民主党政権は、経済財政諮問会議を廃止してしまい、官主導の元の木阿弥に帰してしまいました。今求められることは、経済財政諮問会議を復活させ、さらに、その下にしっかりとした事務局機能を付与して、経済政策の司令塔を作り上げることです。

その他、外交政策、財政政策についても総括をしっかりとすることによって、次の展開が見えてきますので、しっかりと取り組んでいきます。



木原誠二プロフィール

年金・医療・介護、障害者福祉、行財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。

1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

木原誠二事務所

〒189-0013
東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2F
TEL 042-392-4105
FAX 042-392-4106



木原誠二公式 モバイルサイト

<http://kiharaseiji.com/k/>
携帯電話から木原誠二
モバイルにつながります。

オフィシャルブログ <http://ameblo.jp/kiharaseiji/>

twitter ID http://twitter.com/kihara_seiji

ホームページ <http://www.kiharaseiji.com>